

すながわ新庁舎塾

第2回砂川市庁舎建設検討審議会WG会議  
市民ワークショップ

の報告

1. 第2回砂川市庁舎建設検討審議会WG会議の報告について

(日 時) 平成29年 4月19日 18:00~20:30  
(場 所) 砂川市公民館2階ラウンジ  
(参加人数) 7名  
(テ ー マ)

- 基本構想による今後の検討課題として挙げられた項目について
  - ① 市民が気楽に立ち寄り交流できるスペースや、市民のふれあいの場として親しまれる庁舎機能について
  - ② 隣接している、公民館・図書館機能との役割分担について
  - ③ 砂川らしさについて

2. 市民ワークショップの報告について

(日 時) 平成29年5月31日 18:00~20:30  
(場 所) 砂川市地域交流センターゆう ミニホール  
(参加人数) 21名  
(テ ー マ)

- 市民が利用するスペースについて
- 便利で利用しやすい環境について
  - ① 砂川の良いところ・砂川らしさとは？
  - ② 皆さんにとっての市庁舎とは？どういう場であってほしい？
  - ③ 砂川らしい、市民に親しまれる市庁舎づくりには何が大事？

# 砂川市庁舎建設検討審議会 第2回ワーキング 概要

## ①市庁舎における交流機能の考え方

市庁舎に交流の場は必要か？	【課題①】 執務機能と交流機能は共存できるのか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「交流」「活動」と「事務」は折り合わないのではないか？</li> <li>●コンサートなどの交流事業は、役所の業務に差し障りがあるのではないか？（気が散る）</li> <li>●執務機能と交流空間（ロビー等）は明確に分けるべきではないか。</li> </ul>
	交流の場の必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市庁舎に交流機能は必要か？（市庁舎に用事のある人は交流を求めている）</li> <li>●むしろ、市民サービスの充実が必要なのではないか。</li> <li>●既存施設（公民館やゆうなど）で代替機能を満たせるはず。</li> <li>●イベントが平時ある訳ではない、頻度の低いもののためにスペースが必要なのか？（日常的な使い方を想定する必要がある）</li> </ul>
街なかに居場所が少ない	時間をつづせる場所が必要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●このエリアに用事がある人にとっての利便性を考える</li> <li>●お年寄りがタクシーを待つ間、時間を潰せる場所・機能がない</li> </ul>
	そもそも街なかに居場所が少ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子ども達（小4～高2くらい）のたまり場・街なかのアジトがない</li> <li>●安心して遊ばせることが出来る場がない</li> <li>●市庁舎は溜まる場所ではないし、自由感もない</li> </ul>

市庁舎ならではの『交流機能』を考える

## ②周辺施設との役割分担

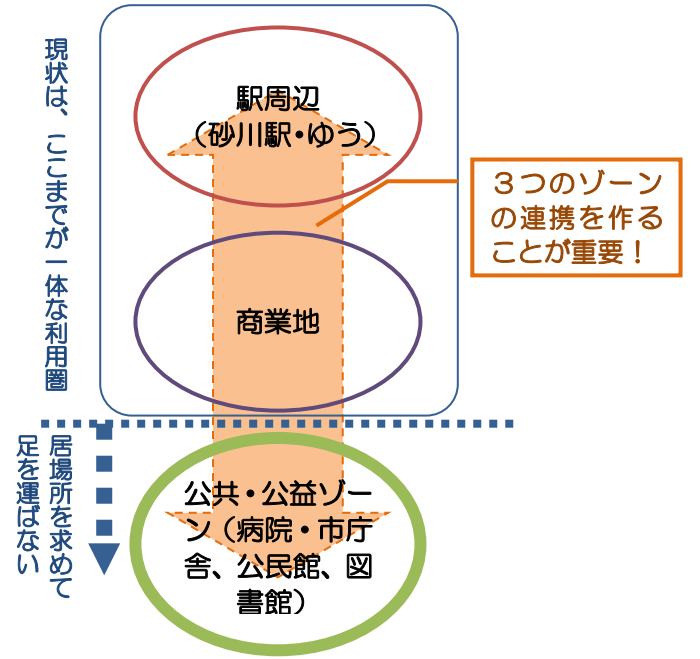
既存スペースの共用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●隣接施設（公民館等）にあるスペースの稼働率を上げる</li> <li>●現状、市役所で行われる会議の外部利用を増やす（庁舎のコンパクト化につながる）</li> <li>●会議の性格に応じた施設の使い分け</li> </ul>
公民館	<ul style="list-style-type: none"> <li>●目的外利用には公民館法などの調整が必要</li> <li>●公民館でやっている会議は市庁舎ではやりづらい</li> <li>●相互利用の可能性は視野に入れておくべき</li> </ul>
郷土資料館（まちのDNAに触れる場）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●郷土資料室がアップデートされていない</li> <li>●収集と整理をするスタッフ（学芸員）の不在が課題</li> <li>●郷土への愛着を高めることで人口減少を緩和できないか？</li> <li>●子ども達への教育の一環として活用し、将来、街に戻ってきたいと思える、街への愛着・誇りを育てる</li> <li>●地場の人材・団体との連携可能性がある場</li> </ul>
図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>●親子連れの利用が増えている</li> <li>●きれいになったが、滝川や新十津川の図書館を利用するケースが多い（雑誌など、蔵書の問題？）</li> <li>●滝川は閲覧ブースと別に自習スペースを作ることで、子ども達の居場所になった</li> </ul>

隣接施設利用者  
子ども・お年寄り  
親子連れ  
若者など

## ③砂川らしさを活かす

## 市庁舎をはじめとする『公共公益ゾーン』に必要な価値を見出す！

たまり場をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●何をしても良い場所</li> <li>●ふらっと立ち寄れる場所</li> <li>●スタバみたいな場所</li> <li>●スマホ・PCに対応している（電源が取れる）</li> <li>●Wifiが使えるところ</li> <li>●立地を活かして眺望を楽しめる場所</li> </ul>
情報交換できる場所（情報発信基地）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ここに来ると砂川の街の情報が全てわかる、情報のワンストップ機能</li> <li>●掲示板などまちの情報に触れることができる</li> <li>●人の輪が生まれる・交流のきっかけができる</li> <li>●SUBACOではなく、市庁舎にこそ必要な機能（来街者なども、情報を求めるときはまず市役所を訪れる）</li> </ul>



『ついで』をつくることで回遊を生む	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日常的に市庁舎に来たついでに他の施設を利用できる、そこにたまり場がある</li> <li>●隣接施設との共存から、居場所がなかった層を取り込む</li> <li>●ここに来ると多目的に過ごせる</li> </ul>
-------------------	---

ゾーンまで足を運ぶ通りの仕掛けづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市庁舎までくる動線として病院・薬局沿いの道路を想定すると、庁舎の配置によっては視界をさえぎる壁にならないか？</li> <li>●動線のヌケを考えると公民館前の駐車場（敷地の北側）が良い</li> <li>●正面性をどう考えるか（12号線からの視認性）</li> <li>●庁舎からの眺望を考えると北側ではなく図書館前のスペースの活用が望ましい</li> <li>●一方では市庁舎単体で吸引力を発揮するのは難しい</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●『通り』として、人を呼び込む、歩いてみたくなる空間づくりが重要（にぎわい軸の実現）</li> <li>●ナナカマド・スズランなど、砂川に因んだ植栽などから「砂川らしさ」を表現</li> <li>●駅⇄病院⇄市役所の歩くストーリーと歩きたくなる環境づくりがポイント</li> </ul>

### その他（中心市街地のまちづくり）

- まちなかに賑わいを作るには人口ボリュームを増やすことが重要
- まちに住む魅力を作れるか（砂川で暮らし、札幌で働くなど、通勤圏の可能性はないか？）
- まちとして「住む」「働く」魅力を満たせるか？
- 市庁舎づくりが初手、つぎの2手、3手を描く必要がある。（市庁舎建設だけではまちづくりに繋がらない）

# 砂川市新庁舎塾市民ワークショップ 概要（全体統括）

## ◆砂川らしさ

### 住みやすさ・コンパクトさ

- ～生活圏、都市規模のちょうどよさ
- ～最低限のものは揃っている
- ～中核病院の存在
- ～近郊都市、札幌等へのアクセシビリティの高さ

### 人のつながり・気質

- ～気さくさ、仲間づくりのしやすさ、人のつながり
- ～活動の興しやすさ、柔軟さ、バイタリティ
- ～若者の尽力・意識の高さ

### 水（河川）、自然

- ～街を取り巻く河川、山などの自然環境の身近さ
- ～公園などパブリックスペースの充実

### まちのブランド・新たな魅力

- ～スイートロード
- ～街中の新たな魅力資源（新たな店舗の立地）

## ◆現在の市庁舎のイメージ・こうあってほしいと思うイメージ

### 暗さ、使いづらさ

- ～暗い、気持ちよさに欠ける、長居できない
- ～分かりづらさ（動線、フロア配置）
- ～バリアフリーの欠如
- ～職員に声を掛けづらい

### 分かりやすさ

- ～総合窓口、コンシェルジュサービスなど、利用しやすい仕組み
- ～ワンフロア化など、わかりやすい機能配置

### 居心地の良さ

- ～明るさ、滞在できる、憩える、開放感がある場
- ～ちょっと休める、滞留できる機能（飲食、wifi など）

### 既存機能との連携

- ～公民館・図書館、ゆうとの連携・機能分担

### 自然と付き合う

- ～災害時の安心を支える
- ～固有の環境（水辺）を体感できる

- 暮らしの便利さを支える
- 人のつながりを育む場と機会づくり
- 砂川らしい資源を活かす、取り込む

- 居心地がよいと感じる雰囲気・環境づくり
- ふと立ち寄りたいたいと思える動機づくり
- コンパクトさを活かしたつながり・連携の強化

### 情報発信拠点

- 街で活動する人、団体の情報
- まちの催事
- 市内外の人が訪れ、市役所が集散の拠点になるような情報の集約
- 既存機能（SuBACo や観光協会など）、人材（地域おこし協力隊）を取り込んで情報発信拠点としての人・情報・活動の集約
- PCによる検索、議会中継など

### 立ち寄りたくなる場

- 気兼ねなく時間を過ごせる（高校生が立ち寄りたくなる、おしゃべりできる、安価に過ごせる）
- ちょっと時間を潰せる（乗り合いタクシーの待ち時間など）
- 立ち寄りたくなる動機・魅力づくり（スタバ、ミスド、ドトールなど、話題になる飲食、Wifi 等）
- 砂川らしい、声の掛け合い、多世代交流が出来る、生まれる場
- 椅子・テーブルを自由に使える
- 高校生が勉強できる場所

### 起業・雇用の場

- 障害のある方々の雇用等による Cafe
- シルバーカフェ、高校生カフェなど
- チャレンジショップ等

### 近隣機能との連携（人の流れの創出、空間的連携）

- 周辺機能との空間的連携（連絡通路等）
- 各施設へのゲートウェイとなる空間、センターラウンジ的な空間
- 出入り口の関係性

### 近隣機能との連携（機能分担・連携）

- 憩いの場（散歩できる前庭など、病院との連携）
- サービス機能（病院の診察待ち時間中に滞留できる場・機能（飲食・物販））

### 分かりやすさ・親近感

- 行政サービスの向上（総合案内窓口、コンシェルジュ機能等）
- 親近感の湧く職員の対応

### 眺望・景観

- 川・オアシスパーク、山並みが見える
- 花火が見える

### その他のアイディア

- 砂川の歴史を知る場（市史・資料展示）
- 高校生が市庁舎マネジメントに参加できる、活動できる仕組み（生徒会別室）